ペヘレイ(PEJERREY)Odonthestes bonariensis(C&V)に対する飼料への油脂添加効果試験

石崎博美・小山定久

ペヘレイの養成用飼料として、コイ用の固型配合飼料（メーカ表示蛋白含有量３９.０％以上）を用いているが、これに油脂を添加した場合の魚への影響と、飼料効果について試験を行ったので、その結果について報告する。

材料及び方法

試験池　同型のコンクリート池３面（１面7.2㎡水深0.8～0.9ｍ）を用いた。

用　水　淡水（湧水）の循環沪過水とした。

供試魚　満３年魚の成魚（１００～１５０g）を各区１００尾づつ用いた。

供試飼料　市販コイ育成用固型配合飼料を用いた。

添加油脂　添加油脂には、理研ビタミンK・Kのフィードオイルを使用した。

試験期間　昭和５４年８月１日から同年９月２０日までの５１日間とした。

方　法　試験区分は表１のとおりで、油脂５％添加区と、１０％添加区及び無添加区の３区を設けた。
油脂の添加は外割量とした。
給餌は、毎日２回午前９時と午後１時に行なった。

表－１　試験区分

区　分	配合飼料	油脂５％	油脂１０％	油脂無添加
１　区	○	○		
２　区	○		○	
３　区	○			○

試　　験　　結　　果

試験結果を表２に示した。

試験期間中の飼育水温は、２１.６～２２.８℃で、各区間における水温の差はみられなかった。給餌は１日２回魚体重の４％を目処として与えたが、試験当初において各区とも下痢症状がみられたので、給餌料を１～２％に減じて試験を続行した。

摂餌の状況

油脂添加による摂餌への影響は見られず、３区とも同様によく摂餌した。

飼料効果

増重量及び飼料効率とも、２区、１区、３区の順で、油脂１０％添加区が最も良く、次いで５％添加区が良かった。無添加区は両者に比して低い値となり、油脂の添加は効果があるものと考えられる。

魚への影響

試験終了までに油脂添加区（１、２区）において、各４尾の死亡があったが、無添加区においても１０尾の死亡がでており、油脂添加による生残への影響は明らかではなかった。

摘　　要

1. ペヘレイの育成用飼料として用いている市販配合飼料に、油脂を添加した場合の飼料効果及び魚への影響について試験を行った。
2. 油脂は５％及び１０％を外割りで添加したが、摂餌については無添加のものと同様に良く摂餌した。
3. 増重と餌料効率では、油脂の１０％添加区が最も良く、次いで５％添加区の順となり、無添加区では両者よりも劣った。

表－2　ペヘレイ飼料の油脂添加効果試験結果

項目＼区分	1区 油5%添加	2区 油10%添加	3区 油無添加	備考
飼育日数(日)	51	51	51	54.8.1～9.20
給餌日数(日)	46	46	46	
放養尾数(尾)	101	100	100	
放養重量(Kg)	11.7	14.5	13.9	
放養時平均体重(g)	115.8	145.0	139.0	
取揚尾数(尾)	97	96	90	
取揚重量(Kg)	15.0	19.4	16.4	
取揚時平均体重(g)	154.6	202.0	182.2	
死亡尾数(尾)	4	4	10	
死亡重量(g)	772	760	1.743.8	
増重量(g)	3,300	4,900	2,500	
原物給飼量(g)	8,580	10,395	10,150	
飼料効率(%)	38.46	47.14	24.63	
補正増重量(g)	4,072	5,660	4,243.8	
補正飼料効率(%)	47.46	54.44	41.81	
油投与量(g)	429	1,039.5	0	理研フイード オイル外割添加
日間給餌率(%)	0.95	0.92	1.02	
日間成長率(%)	0.57	0.65	0.53	
飼育水温(℃)	22.2－22.4	21.6－22.8	22.0－22.3	午前10時～午後4時